

2026 4/14

No.2256

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



相鉄線の新型車両「13000系」が運行を開始した。来年開催の国際園芸博覧会での展示も予定されており、「ヨコハマネイビーズブルー」の車体が人気を呼びそうだ。



視点点描	3
新入社員たちの明日	
特集	4
「Jコンテンツ」第3次ブーム 自動車産業に並ぶ大黒柱へ	
政治双眼鏡	8
「責任ある日本外交」は看板倒れか 上滑り感の日米首脳会談	
よんななエコノミー	9
東京に集中する結婚・出産	
サヘル・ローズ×リアルワールド	10
ある映画が問いかけてくるもの	
管理職はつらいよ！	11
大阪城の火事	
くらし2026	12
ドナー登録、より手軽に 骨髄バンクが新方式導入へ 若い世代に参加呼びかけ	
かながわTODAY	14
3月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2026年4月定例講演会

4月21日(火)
午後1時30分～2時45分
ロイヤルホールヨコハマ
(横浜市中区)

講師：JFEホールディングス
専務執行役員 岩山 眞士氏
演題：「次の100年を見据えた
大規模土地利用転換への
挑戦」

◇2026年5月定例講演会

5月22日(金)午後1時30分～3時
メルヴェーユ (桜木町駅近く)

講師：神田外語大学教授
興梠 一郎氏

◇2026年6月定例講演会

6月25日(木)
午後1時50分ごろ～3時
メルヴェーユ (桜木町駅近く)

講師：日本ファクトチェックセン
ター編集長 古田 大輔氏
※午後1時30分から同会場で当
会決算総会を開催予定

◇2026年7月定例講演会

7月9日(木)午後1時30分～3時
ロイヤルホールヨコハマ (横浜
市中区)

講師：BNPパリバ証券経済調
査本部長 河野 龍太郎氏

視点 点描



新入社員たちの明日

4月に入り、街中で新入社員と思われるスーツ姿の若者の一行を街で見かけるようになった。研修の移動中なのか、緊張した面持ちで歩く様子に、思わずエールを送りたくなる。

筆者が新卒で入社したのは、1998年。バブル崩壊後のいわゆる「就職氷河期」だった。当時は内定が取れず、あえて単位を落と

して留年したり、大学院に進んだりして再度、就活に励む学生も珍しくなかった。

あれから四半世紀以上が過ぎ、学生たちを取り巻く環境は一変した。インテイクルートパー

トナーズ（東京都）の調査によると、2026年卒の大学生の卒業時点の就職内定率は98・7%。少子高齢化に伴う労働力不足を背景

に、学生に優位な「売り手市場」の状況が続いている。

調査結果で驚くのは、採用に至るまでの過程だ。企業の選考（面接）を最初に受けた時期として最も多かったのが卒業の前々年、つまり大学3年生の12月。25年卒は3年生の1月や3月がピークだったことを踏まえると、早期化が一段と進んでいる。

さらに全体の約5割が3年生の2月までに最初の内定を取得したといい、政府の定めるルールが形骸化している実態がうかがえる。

内定を得ながら決めきれずに就活を続けるケースも多いため、活動が長期化し、学生の負担が増すことも懸念される。貴重な大学時代の時間の多くが就活に削られてしまい、果たしてこれで良いのか、と思う。

一方で、人手不足の折、優秀な人材を早めに確保したいという企

業側の心理も分からなくはない。

最近ではインターンシップ（就業体験）を募集し、参加した学生の中から採用につなげる企業が増えているが、ミスマッチを防ぐという点では理にかなっていない。ただ、売り手市場なだけに、内定者をつなぎとめておくのも一苦労、といった話はあちこちで耳にする。

終身雇用や年功序列が崩壊しつつある昨今。人材の流動化が進み、若者の感覚では、転職はもはや当たり前だ。街を行き交う新入社員たちの中に、生涯その会社で働き続ける人が果たしてどれほどいるだろう。

最適解を見いだすのは難しいが、学生・企業双方にとってメリットの大きい新卒採用の在り方を検討すべき時期にきていることは間違いない。

（神奈川新聞社統合編集局経済部長・

岡本 晶子）